

〔東野州聞書〕一寶德四年七月廿二日於常光院承條々、○中

作者ノ讀やうの口傳 俊生 山上億良 額田王 略 中

置始東人ハ口傳 懷 此字ハ名ノリニ、ヤス

一享德元年八十六於常光院尋習條々、○中

朝光 朝忠 國章 平祐舉 平公誠 輔昭 平忠依 源寬信朝臣 高向

年春 弓削嘉言 大江喜言 石川良女 高岳相如 三統元夏 源致方 慶滋保胤 統理

參議玄上 扶朝朝臣 孚子内親王 輔臣 治部卿仲統 北邊左大臣 惟宗成長

〔叡岳要記〕上推古天皇十四年丙寅以三位三津氏百枝爲大藏卿、○中

私云、大外記中原師重云、百枝二讀也、一ニハ百枝、一ニハ百枝、然者不可讀枝云々、建保六年

〔南留別志〕一名乘に純をすみ茂をもちとよめるは音なり、○中

一朝の字を、或はあさ、或はともとよむ事は、或は公武にてかはり、或は上下にて異なりとやらん

いふは、僻事なるべし、義朝の子、朝長あり、おき所上下ありともかはるまじ、公家武家といふ事

は、鎌倉以後の事なり、

〔南留別志拾遺〕朝をともと讀む事は、朝廷もおほやけも同じ意なりとて、公の字の訓を用ゐたる

なるべし、公は公共の意にて、ともとよめる也、

〔野宮問答〕一忠助と書きたる名乗を、忠覽と讀み申事は、元來忠覽にて候得共、障りこれあり、忠助

と字を替へ候へ共、たゞみといふ事、上に御存知の實名故よみを改めずして、忠助をたゞみとい

ひ付申候、

〔鹽尻〕昔人名倭訓 昔人の名、倭訓傳をえらすして、妄に稱はいと俗なり、合間 董文 愛發

發生 乙叡 訓儒 巨勢麿 主復 在公 眞能守 仁道 直作 弟藤 五百城 三成 玄